

広報活動

より多くの人に、古事記 1300 年 紀事業のイベントを知ってもらうために、ポスター・チラシ・リーフレットの発行・広報紙・ホームページでの発信を行いました。

また、広報紙では、市民に古事記のおもしろさを知ってもらおうと、1 年前より「来る 2012 年 古事記 1300 年 紀」を連載しました。

ポスター・チラシ



ホームページで動画の配信

和歌山市のホームページでは、PR 用動画や、終了後は報告用動画も配信しました。

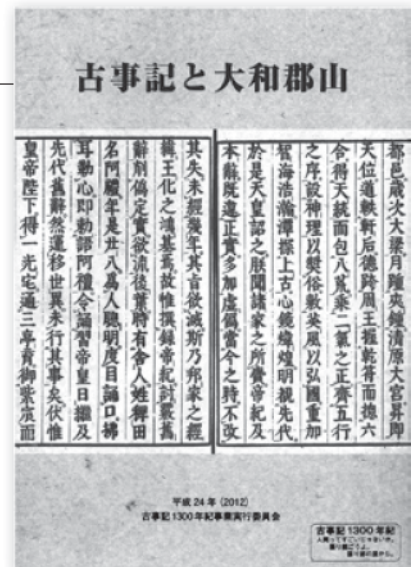


リーフレット『古事記と大和郡山』

大和郡山の歴史の中から古事記との関連を探りました。

目次

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 古事記とは | — 神話と歴史の間 — |
| 2. 稗田阿礼と太安万侶 | — 古事記編さんの立役者 — |
| 3. 下ツ道と「稗田」 | — 道・川・橋・まじない — |
| 4. 稗田環濠集落の成立 | — 濠で囲まれた村 — |
| 5. 賣太神社の変遷 | — 祭神稗田阿礼の登場 — |
| 6. 阿礼祭のはじまり | — 語り部の里へ — |
| 7. 久留島武彦と奈良 | — 児童文化人の活躍 — |



『来る2012年、古事記1300年紀に向けて』

平城遷都の2年後712年、日本最古の歴史書『古事記』が編さんされました。古事記には、宇宙の始まりや多くの神話、歌謡、伝説が豊富に記されています。また、古代人の生活習慣、思想がちりばめられていて、私たちの祖先の生き方や考え方を考察することができます。その、歴史的・文化的遺産とも言える古事記の編さんに、ここ、大和郡山出身の人物が深く関わっていました。



稗田阿礼

大和郡山市稗田町出身の「稗田阿礼（ひえだのあれ）」は、古事記の序に「時に舍人あり、姓は稗田、名は阿礼、年はこれ二十八、人となり聡明にして、目に度れば口に誦み、耳に佛るれば心に勒しき」と記されています。一度、目や耳にしたことは決して忘れなかった稗田阿礼に、時の天皇、天武天皇は、古代の様々な事柄を読み習わし、授けました。そして30有余年後、元明天皇が、太安万侶に「稗田阿礼が読み習った事柄を記録せよ」と命じ、古事記が誕生しました。



語り部の里大和郡山

1300年の時空が流れた今、阿礼が語った物語を語り継ぐため、また現代人が忘れかけている何かを後世に伝えるため、そして新たな物語りを産み出すため、来年2012年を「古事記1300年紀」とし、市民のみなさんの参加のもと、阿礼生誕の地から「語り部の里 大和郡山」を全国へ発信していきます。

(平成23年1月10日号掲載)

「お話の神様」稗田阿礼

古事記の編さんに携わった稗田阿礼は、市内稗田町にある賣太神社（めたじんじゃ）に祀られています。賣太神社では阿礼の業績をたたえて、昭和5年から毎年8月16日に「阿礼祭」が開かれています。

阿礼祭では地元小学生による雅楽に合わせて「稗田の舞」が奉納され、「阿礼さま音頭」や「阿礼さま祭り子供の歌」の舞が披露されます。その後には、童話連盟の人たちによる童話会が開かれ、読み聞かせや腹話術が催されます。「阿礼さま音頭」で阿礼は、「お話の神様」と歌われ、地元の人に親しまれています。

(平成23年2月1日号掲載)



「古事記」には・・・

古事記には、数多くの神話がかかれていています。「因幡の白兔」「八俣のおろち」「海幸彦と山幸彦」などは私たちが子どもの頃に語り聞いたお話です。

戦後の教育では神話があまり扱われず、神話を耳にすることが随分少なくなりましたが、今またその良さが見直され、来年度採用の教科書の多くにこの神話を取り上げられることになりました。神話は私たちに家族の愛や勇気など、たくさんのことを教えてくれています。

また、古事記には112首の歌が詠まれています。日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が、大和の国を偲んで詠んだ歌、

「倭は国のまほろば たたなづく青垣 山籠れる 倭し うるはし」

は、やまとの美しさを詠んだもの。奈良県でよく名づけられる「まほろば」という言葉は、ここからの引用でしょう。

そして、古事記には宇宙が誕生してから神々が高天原へ集まるまでの百五十億年という時間の経過が記されています。1300年も前の古代人が、なぜそんな時間を考えられたのか、宇宙という空間を感じられたのかを思うと、とても神秘的です。古事記はじつに魅力たっぷりの書物です。

(平成23年3月1日号掲載)



阿礼が私たちに語り伝えたこと

私たちが後世に語り伝えたいこと

稗田阿礼が、語り伝えた「古事記」を紐解くと、古代人の生き方や物の考え方などを推し量ることができます。また、随所に先人の深い知恵がちりばめられ現在（いま）を生きる私たちにたくさんを伝えていています。そして、今、私たちが後世に語り伝えていきたい「物語り」があります。それは、その土地土地に伝わってきた民話や伝説です。民話や伝説には、その時代に生きた人々の考え方、くらしぶり、伝統、風習が記されています。古くから受け継がれてきた大事なものや、地域の文化が綴られています。

大和郡山にも「矢田の蛙と平群の蛙」「豊浦のたぬき」「弘法の井戸」など、たくさんの民話があります。

地域に語りつがれてきた伝説をボランティアらの手で掘り起こし書籍にしたもの、絵本や紙芝居にしたものもあります。これらは、市立図書館などで見ることができます。同じお話でも、地域によって内容の違うものもあり、くらべてみるのも楽しいものです。私たちの住むこの郡山の地には、まだまだ知らない物語が隠れているかもしれません。

ありふれた街や、見慣れた光景のその奥に…。

(平成23年4月1日号掲載)



古事記ゆかりの地



奈良県やその周辺には、古事記の舞台とされている伝承の地がたくさん存在します。その中で大和郡山市にあるものを紹介します。

賣太神社(めたじんじゃ・稗田町)

稗田環濠集落の端にある神社で、古事記編さんに携わった稗田阿礼(ひえだのあれ)を主祭神としています。

境内には「かたりべの碑」が建てられ、毎年8月16日には阿礼祭が行われます。また、月に1回程度、古事記輪読会が開催されています。



矢田坐久志玉比古神社

(やたにいますくしたまひこじんじゃ・矢田町)

古事記に登場する、饒速日命(にぎはやひのみこと)が天磐船(あめのいわふね)に乗り、空を飛んでこの地に降り立ったとされています。

その神話から航空の神ともされ、楼門にはプロペラも奉納されています。旅行の安全祈願に訪れる人も多いようで、春日造の本殿(重要文化財)は室町時代の建築です。



杵築神社「でんでらこ」(きずきじんじゃ・山田町)

杵築神社に伝わる「でんでらこ」は、子どもがおとなに酒をふるまい、榎の木を引っ張り合います。酒に酔ったおとなが、子どもが扮するスサノオノミコトに負けてしまうという所作がヤマタノオロチ伝説をあらわしているといわれています。

(平成23年5月1日号掲載)

古事記が編さんされた地

古代の様々な事柄を読み習わし、古事記の編さんに携わった稗田阿礼は、市内稗田町にある賣太(めた)神社に祀られています。

一方、古事記の撰録者とされる太安万侶(おおのやすまろ)を祀るのが、多(おお)神社。田原本町多にあります。

約15キロ離れたこの2カ所は、古代の幹線道路「下ツ道」で結ばれます。当時は藤原京から平城京羅城門へとまっすぐ延び、道幅は25メートルもあり、藤原京から平城京への遷都の際も重要な役割を果たしたとされています。現存する道は細いですが、今もなお農道や生活道として活かされています。



多神社(磯城郡田原本町多)

飛鳥の時代から平城の時代へ、多くの古代人が行き交ったこの道、沿道には、数多くの遺跡、伝説などの観光資源があります。

市内だけでも、悲しい「大蛇の恋」の伝説が伝わる『嫁取橋』（八条町）や、「天目一箇神（あめのまひとつのかみ）」を御祭神とする『菅田神社』（八条町）、賣太神社が位置する『稗田環濠集落』（稗田町）、「平城京羅城門跡」（観音寺町）など多数。古代人になった気分で、古来の下ツ道に思いを馳せながら、歩いたり、サイクリングするのもいいものです。

（平成 23 年 6 月 1 日号掲載）

「下ツ道」は、奈良県のウォーキングポータルサイト「歩く・なら」のホームページでも詳しく掲載しています。



古事記の原本は・・・

古事記は、和銅 5 年（712 年）、元明天皇の命で稗田阿礼の語ることを太安万呂が撰録し献上した、日本最古の歴史書です。全 3 巻で、天地ができるころから、推古天皇の時代までを、神話や伝説を織り交ぜながら記述しています。

本文は和文的漢文体ですが、漢文では表記しづらい固有名詞等は漢字 1 字 1 音表記で表しています。

(原文)	時有舍人。姓稗田名阿禮。年是廿八。 爲人聰明。度目誦口。拂耳勒心。	伊邪那岐命 伊邪那美命
(読み下し)	時に舍人あり。姓は稗田、名は阿礼、 年はこれ二十八。人となり聡明にして、 目にわたれば口に誦み、耳にふるれば 心にしるす。	いざなぎのみこと いざなみのみこと

編さん当時の原本は、残念ながら現存しませんが、その写本はいくつか伝わっています。1371 年から 1372 年に書写された「真福寺本」は、最古の写本として貴重で、国宝に指定され、愛知県の真福寺宝生院（大須観音）に所蔵されています。

次に古いとされる 1381 年に写された「道果本」（上巻前半のみ・重要文化財）は天理図書館（天理市）に、また、本居宣長による「訂正古訓古事記」の刊本（1870 年）が県立図書館に所蔵されています。

（平成 23 年 7 月 1 日号掲載）



阿礼祭

現在の大和郡山市稗田町の出身で、古事記の編さんに携わった稗田阿礼は、古事記の序文に「若くて聡明、記憶力にも優れた人物」と書かれています。阿礼が史料に登場するのはここだけ。人物についての詳細は分かっていません。そのため、男性説、女性説、非实在説などの諸説が、本居宣長、柳田国男などの著名な国学者、文学者の間で唱えられてきました。



平和地区公民館・多目的ホールの緞帳に描かれた阿礼

その阿礼を「アンデルセンのような、童話の神様」とたたえ、児童文学者“久留島武彦”の提唱で昭和5年8月16日、第1回阿礼祭が開催されました。その後も毎年途切れることなく行われ、今年82回目を迎えます。

毎年…そう昭和20年8月16日、終戦の翌日も粛々と行われたとのこと。



『語り部の里』大和郡山はこれからも…。

(平成23年8月1日号掲載)

「古事記」は面白い

日本最古の歴史書「古事記」といえば、「なんだか難しくてとっつきにそう」と感じる人も多いかと思いますが、古事記には日本の国のはじまりや「因幡の白ウサギ」などの神話、夫婦愛や親子愛など、私たちの身近なお話がかかれています。

また、原文は漢文体ですが、口語訳されたものや解説本、絵本やマンガで書かれたものなどもたくさん出版されています。絵本は児童書に分類されていますが、大人が見てもわかりやすく、興味をひかれるものです。市立図書館や南部公民館図書室にも揃えていますので、その一部を紹介します。

著書名	作者等	所蔵場所
口語訳 古事記	三浦 佑之	南部公民館図書室
阿刀田高の楽しい古事記	阿刀田 高	市立図書館
絵で見るたのしい古典 1巻 古事記・風土記	萩原 昌好 他	市立図書館
マンガ日本の古典 1巻 古事記	石ノ森 章太郎	市立図書館

一度手にして、その面白さに触れてみてください。

(平成23年9月1日号掲載)

古事記発祥の地

古事記編さん 1300 年

2012 年、古事記編さん 1300 年を迎えるにあたり、全国各地の“古事記ゆかりの地”で、記念の事業が開催されようとしています。

奈良県では 2012 年から、日本書紀完成 1300 年目となる 2020 年までの 9 年間をつなぎ、「記紀・万葉プロジェクト」として、県特有の歴史素材を活かし奈良の魅力を全国に発信する取り組みを行います。

そして大和郡山市でも、本市出身の稗田阿礼が古代の様々な伝承を『語る』ことで後世に残した『古事記』のよさを、もっと多くの人に知ってもらうため、また『語る』こと『語り伝える』ことの大切さを醸成するための事業を企画しています。



阿礼談古図（作：小杉未醒）

地域の誇りとして

古事記には宇宙の誕生から壮大なスケールの歴史の経過や、神話や歌謡が記されています。日本最古の歴史書とも文学書ともいわれる、壮大でロマンに満ちた『古事記』。

ここ大和郡山がそんな古事記の発祥の地であることを地域の誇りとし、2012 年のこの事業が古代（いにしえ）から連綿と続いた歴史遺産を未来（あす）へ受け継ぐための土壌作りとなればと考えています。

（平成 23 年 10 月 1 日号掲載）

2012年(平成24年)、「古事記」編さん1300年目を迎えます。

大和郡山市では、『人間ってすごいじゃないか。語り継ごうよ、語り部の里から。』をテーマに様々な事業を展開し、古事記を通じた人づくり、まちづくりを進めます。

『人間ってすごいじゃないか。 語り継ごうよ、語り部の里から』

古代の様々な伝承を語り、古事記の編さんに携わった稗田阿礼の出身地 大和郡山

大和郡山市と古事記

現在の和歌山県大和郡山市稗田町出身の稗田阿礼は、一度見聞きしたことは決して忘れない、聡明な役人でした。時の天武天皇は阿礼に古代の様々な事柄を詠み習わし、記憶させました。

そして30有余年後の元明天皇が太安万侶に「稗田阿礼の詠み習ったことを記録せよ」と命じ、712年に古事記が誕生しました。

阿礼が私たちに語り伝えたこと

古事記には、多くの神話、歌謡、伝説が記されています。古事記を紐解くと、古代人の生き方や物の考え方などを推し量ることができます。また、随所に先人の深い知恵や家族の愛がちりばめられ、現在(いま)を生きる私たちにたくさんのことを伝えています。

私たちが後世に語り伝えたいこと

1300の時が流れた現在、世の中に情報が氾濫し、「語る」こと「語り継ぐ」ことの大切さが忘れられようとしています。また、核家族化が進み、家庭における「語り部」の機能が希薄になっているといえます。

折しも、2011年3月、東北を襲った大震災では、過去の災害から語り継がれてきたことが、多くの人の命を救いました。知恵や経験、歴史や文化を語り継ぐことの大切さが今、改めて問われようとしています。

まちの魅力を再発見

稗田阿礼が古代の様々な伝承を『語る』ことで後世に遺した『古事記』。この壮大なスケールで、ロマンに満ちた古事記の素晴らしさを、もっと多くの人に知ってもらい、ここ大和郡山がそんな古事記の発祥の地であることを地域の誇りとし、まちの魅力を再発見となることをめざします。

新たな物語りが今ここに始まる

全国には、神話の舞台などの古事記ゆかりの地は数多く存在します。しかし、古事記編さんという史実に関わる地は、太安万侶ゆかりの多神社がある同じ奈良県磯城郡田原本町と、ここ大和郡山だけではないでしょうか。阿礼の残した偉業「語る」こと「語り継ぐ」ことの大切さを全国へ発信することで、「語り部の里 大和郡山」を広めていきます。

1
3
0
0
年
紀



(平成23年12月1日号掲載)